TOKKATSU
特活通信

2025 年 5 月 20 日　第 6 号
発行　日本特別活動学会
会長　安井一郎（獨協大学）
文責　秋山麗子（神戸松蔭大学）＆
山田真紀（椙山女学園大学）

特別活動では教員の資質向上が期待できます

特別活動は“同僚性”と教師の“働き甲斐”を高めます

特別活動は子ども達の社会参画の態度を育て、人格形成に資するだけではありません。子ども達とともにある教師にも成長をもたらします。その具体例をここでは3つご紹介します。

（1）　教師の資質向上に寄与します

特別活動は「子ども達が自分たちで学校や学級生活を創る」ことを大切にします。そのため教員は「学校や学級生活を児童生徒と一緒に創っていく」という姿勢で関わることが重要です。このプロセスで「子ども主体の学習と活動をファシリテートする」という、現在、学校教育で最も求められている教師の資質を向上させることができます。

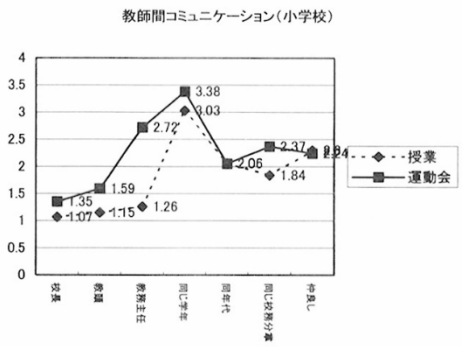
（例）特別活動の研究に取り組んだ関西地区の T 小学校の先生方のコメント

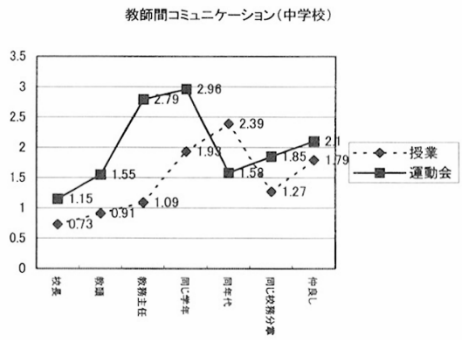
★ 2 年間特別活動を研究テーマにすることによって、指導者自身の指導能力の向上になった。

★ 特別活動に取り組む中で、子どもに向き合う教員の姿勢が変わり、子どもを見る視線が深く温かくなっていった。そのことで子どもとの信頼関係ができ、学校の雰囲気が落ち着いていった。

（2）　教師の同僚性を高めます

山田の研究は、学校行事の実施が教師間の相互理解・教師間の相互啓発・生徒の情報の共有をプロセスとしながら、同僚性を高めることを明らかにしています。





出典）山田真紀「学校行事の実施と教師の同僚性～東京都の公立小中学校を対象とした体育的行事に関する質問紙調査から～」日本特別活動学会紀要、第 11 号、2003 年 3 月、49 頁

（3）　教師の働き甲斐を高めます

「同僚と支えあい子ども達のためになる活動を実現する」「子ども達と達成感と感動を共有する」機会となる特別活動は、教師の働き甲斐を高めます。

特別活動で進めよう！ 教師の“働き甲斐改革”